

平成 30 年 12 月 17 日、九州・福岡において**革新的技術開発・緊急展開事業（うち地域戦略プロジェクト）成果普及推進事業「ICT が拓く九州の林業ビジネス」**が開催されました。開催概要は以下のとおりです。

【開催趣旨】

革新的技術開発・緊急展開事業に採択された、「ICT を活用した木材 SCM システムの構築」事業の研究成果である、林業分野における ICT を用いた革新技術について、九州地域の業界内外に広く周知することで普及を図るとともに、当該地域における木材生産及び木材流通・加工への適合について検討する。

さらに、参加者から得られる現場課題を踏まえた意見等を今後の技術改良と普及の展望のとりまとめに資する。

- 日時 : 平成 30 年 12 月 17 日 (月)
13 : 30~16 : 30
- 場所 : アクロス福岡 大会議室 (福岡市中央区天神 1 丁目 1-1)
- 主催 : スマート林業構築コンソーシアム
- 共催 : 農業・食品産業技術総合研究機構生物系特定産業技術研究支援センター、
東京大学大学院農学生命科学研究科、鹿児島大学農学部、
三重大学大学院生物資源学研究科、住友林業株式会社

【プログラム】

◇成果報告 (東京大学仁多見教授)

本研究事業「革新的技術開発緊急展開事業（うちうち地域戦略プロジェクト）～ICT を活用した木材 SCM システムの構築～」の 3 カ年の成果について 4 つの課題毎の取組を中心に説明された。

◇基調講演 (林野庁九州森林管理局 計画保全部長 井口真樹氏)

国産材流通の現状と課題を述べられた上で、林野庁が現在取り組んでいるスマート林業の推進や木材 SCM の先進事例と目指すべき姿について説明された。

◇事例紹介

タマホーム株式会社工務資材部 課長 谷口猛氏

タマホームの国産材使用比率が 74%に至っていること、構築済みである独自の流通システム「タマストラクチャー」の有効性、施主向けの木材産地証明書発行等への取組について説明された。

協同組合熊本ランベックス 専務理事 小田修一氏

川上、川中、川下が連携した上で、地域材トレーサビリティシステム、生産管理システム、配送管理システム等、プレカット工場の管理システムを活用した木材の流通効率化について説明された。

中国木材株式会社 代表取締役副社長 堀川保彦氏

宮崎県の日向工場において、現在 50 万 m³ の原木を消費しており、2020 年には 80 万 m³ の消費を計画していること、そのためには、原木集荷量の安定化、物流システムの再構築、原木価格・品質の安定化、主伐跡地の再生林の推進等が課題であることを説明された。

ひむか維森の会 顧問 藤掛一郎氏【宮崎大学教授（森林経済学）】

素材供給の立場から、原木市場を通さない直納方式が主流となっていること、山土場が狭いため出材後すぐ運送しなければならないことによる在庫調整の困難さ、立木在庫を十分に持ち、生産（供給）の安定化を図ることの重要性を説明された。

糸島市役所 産業振興部農林水産課 主任主査 池田将信氏

糸島市においては、森林整備から林業振興へと施策の重点が移ってきており、今後の施策の有効性を高めるため、航空レーザ計測を行った上で、「糸島市森林・林業マスタープラン」を作成し、市産材 SCM の構築等、実行体制の構築も併せて行っていることの説明があった。

◇パネルディスカッション（コーディネーター：鹿児島大学農学部教授 寺岡行雄氏）

前半は、会場からの質問に回答する形で、林野庁井口氏、並びに川上から川中、川下まで網羅した事例発表者から、それぞれ木材 S C 構築に際しての課題について意見交換した。後半は、出された課題を解決する一助として、ICT を活用した木材 SCM システム構築の可能性について討議された。

以 上